

Title	希望・尊厳・スピリチュアル：緩和ケアからのアプローチ実施結果：アンケート集計結果の概要(総合研究所 News：カウンセリング研究センター講演会)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.4, 2012.2：31-34
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=3696
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

カウンセリング研究センター講演会
希望・尊厳・スピリチュアル
—緩和ケアからのアプローチ—
実施結果—アンケート集計結果の概要—

スピリチュアルケアが医療界で話題になり、徐々に研究が進んでいます。哲学的考察を深めている第一人者の清水哲郎先生に、今回スピリチュアルケアをどのように受け止め、考えを深めるかをご講演いただきます。スピリチュアルケアの本質の深さと幅の広さについて考えてみたいと存じます。それは私たち自身の生き方や在り方への洞察を深めることになるでしょう。

日 時 2011年11月18日（金）14：00～16：30

場 所 聖学院大学ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

挨 拶 阿久戸光晴（聖学院大学理事長・学長）

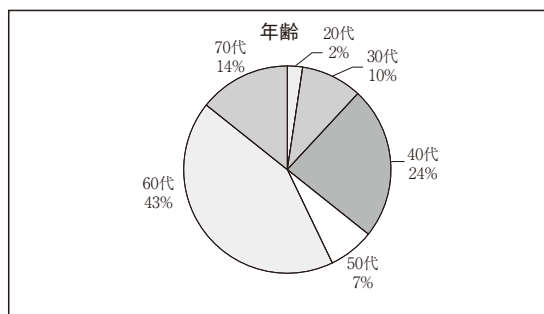
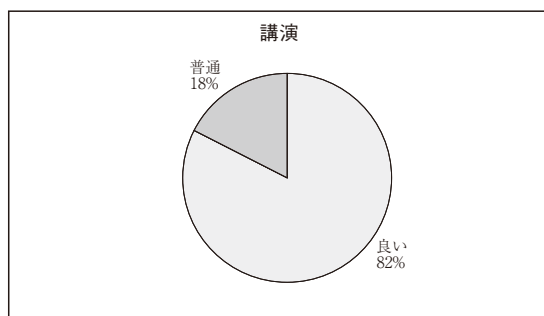
講 演 「希望・尊厳・スピリチュアル—緩和ケアからのアプローチ—」

清水哲郎（東京大学大学院教授）

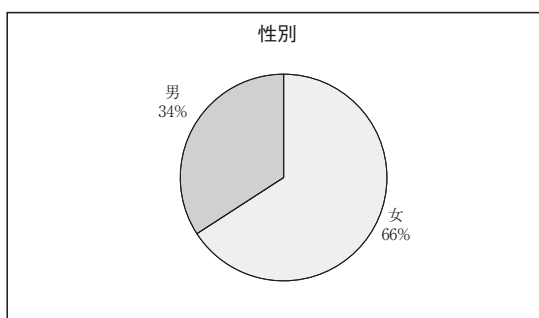
質疑応答

【結果の概要】

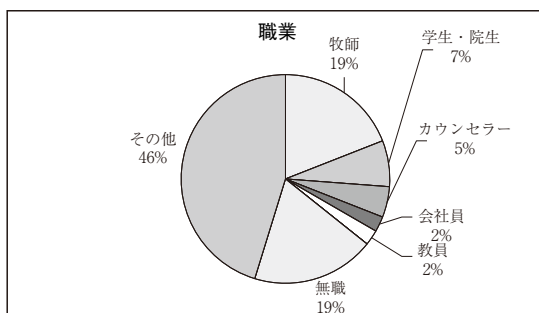
- ・参加者は66名。内、アンケート回答者は43名だった。
- ・講演について「良い」という意見が82%と高い評価を得た。
- ・自由意見としては「広い視野に立ったお話が良かった」「すばらしい講演会に参加できてうれしかった」「時間が足りない」など。



* 回答者の年齢は、60代が最も多く43%、次に40代、70代であった。

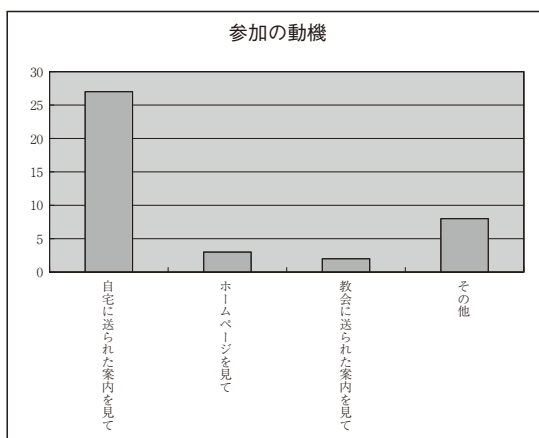


* 回答者の性別は、女性が66%、男性が34%であった。



* 職業別には、「牧師」と「無職」が最も多かった。

「その他」の内容は、「医療職」「福祉職」「看護師」「介護福祉士」「僧侶」など。



* 「その他」の内容として、「職場で案内を見て」「大学でチラシを見て」など。

自由意見

・スピリチュアルコミュニケーションについて哲学的な考え方を踏まえて分かりやすいお話、興味深いお話をありがとうございました。夫、弟な

ど肉親との最期の時を経験しましたが、いつも相手の見ているものを見ようとせず、向き合ってしまう私である事をいつも思われ、愛のなさを感じさせられている。

- ・今までスピリチュアルケアということについて、ボンヤリ受けとめていたことが整理されてきました。いろいろな分野の例があつておもしろかったです。今日、語りきれなかった事についても聞いてみたかったです。
- ・とても多くを学ばせていただいた清水先生のご講演を心より感謝いたします。「いのり」についてのお話を伺っている中で、小生は坂井泉水氏の『眠り』という詞を考えました。彼女は「淋しさにに戦う夜には・・・中略・・・昔好きだったあの人を思い出す」と歌います。これは、人が自分の孤独を癒やすために与えられたことではないか、と今私は考えております。このようにしますと、ひとはたとえ信仰を持っていなくても、神の愛を実感していなくても、少なくともある程度癒やされると感じています。キリスト教者である小生が坂井氏から学んだことでした。せんえつなことを書きまして、誠に失礼しました。ありがとうございました。
- ・清水哲郎先生の心豊かな素晴らしい講演会に参加させていただいて、とてもうれしく、わたしにとって充実した恵の時間を過ごさせて頂いて、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。人間の「スピリチュアルな領域」について、考えたり、理解したり、これからも大切にして生きていくのに、私にとってとても



講師の東京大学大学院教授 清水哲郎氏



66名の参加者があった。

- 深い助けになりました。「働きかけることばの力」の大切さも実感しました。ありがとうございます。お疲れ様でした。
- ・一生懸命語られる姿に感銘を受けました。万葉集や古事記が登場して、その知識の深さと広さに驚きました。「物語られるいのち」の部分はとても印象深く聴くことが出来ました。
- ・愛するものの死ということが「喪失」ということで、その言葉の意味が理解できました。人のために動いていた人間が受ける側に立った時の「本人が立て直すプロセスを支える」事も具体的に知りたと思っています。
- ・楽しくききました。
弟をガンで亡くした時のことを思い出します。死が近くなった時、お医者さんは何と言いましたか？と弟に聞きました。大変な事が起きると言っただけ。死が近いこと、別れの言葉を言っておきなさい、とも言われぬ、言えないのかも知れません。大変な事は死が近い、死ぬことですよ。行き先はどこか決まっているのかと、話しました。キリストを信じている者は祈ることも、話すこともできるが。キリストを信じていない人は、言葉がないことも学びました。
- ・高慢と謙虚、世話をしてもらっている人の痛み、苦しみにについて考えさせられました。今は世話をしている（させてもらっている？）方の立場ですが、先々は逆になるので、今日のお話は大変参考になりました。
被災地のお話も初めて聞くこともあって、とても心に響きました。もっと語り合う場があればと思っています。辛さを吐き出す場が少ないよ

うに思います。

- ・スピリチュアルコミュニケーションについて、祈りを中心とした神学的視点での話は何回か聞いたが、哲学的考察を深めたお話をは初めてであり、大変良かったです。物語れる命が生物学的生命の価値の源ということを今後考え深める動機になりました。
- ・「遺体のない家族の悲しみが報道によって知られる。どのようになぐさめられるのか、語るべき信仰者（宗教者）のことは、なすべきことが言われている。」それを考えながら自分のおかれている場所で生活しています。3.11があったから何をするではなく、平常の中で考え続けることの大切さを学びました。
- ・私は、（主に）ターミナルにある方のベツトサイドでハープと歌で祈るというボランティア養成講座で学んでいます。ここでも「寄り添う」ということを基本にやっていますが、相手と向き合うことではなく、同じ方向を見る、相手が見ているものを見ようとするのが寄り添うことなのだという事に気づかされました。患者さんのもとへ向かう時、このことに心がけていきたいと思いました。
- ・終始穏やかな笑顔で、多くの文化的側面からアプローチで楽しい講演でした。死に直面したときの希望について、もっと伺いたく思いました。謙虚なお人柄に接することができてうれしかったです。
- ・スピリチュアルな面を別な角度から教えられました。広い視野に立ったお話がとてもよかつ

た。

- ・物語られるいのちが、生物学的生命の源というお話が印象に残りました。
- ・今回抜けた部分について、もう一度聞きたいと思います。時間が足りない。
- ・出席できて本当に良かったです。
- ・クローズ時間が早すぎ！これだけの内容をもつ講演会なので、後ろに延びることを想定しての時間設定をしてください。
- ・貴重な講演でしたが、後半資料が不完全消化で少し残念でした。
- ・話していただけなかったところを伺いたかったと思います。
- ・現代をどう生きるか？ 哲学的な面からのサジェスチョンをいただければ。
- ・テーマをみて参加を決めたが、講演の内容は違っていた。
- ・テーマをみてとても興味深い設定でしたので参加しました。緩和ケアとスピリチュアルの内容と思っていましたが、少々違うようで残念でした。



医療・福祉等の分野で専門職として働く人びとの参加が多かった。